

駿府の時代から多くの人々が
歴史を積み上げてきた静岡の町。
明日に向け、これからの歴史を
つくる主役は、あなたです。



新型コロナウイルス
感染症の大流行

令和
2019年～



静岡市歴史博物館 令和5年(2023)1月グランドオープン!

Shizuoka
City
Museum of
History
静岡市歴史博物館



世界に誇る「プラモデル」を活用したシティ
プロモーション



清水灯台

明治45年(1912)竣工、日本初
の鉄筋コンクリート造の灯台。
令和4年、重要文化財(建造物)
に指定するよう国の文化審議
会が文部科学大臣に答申。

都市景観、交通インフラの充実

静岡・清水両市の合併 (平成15年)

国内14番目の政令指定都市

蒲原町合併 (平成18年)

由比町合併 (平成20年)

全国有数の大都市へ



安倍川花火大会

戦災で亡くなった方々の鎮魂と復
興を願って始まった夏の風物詩。



日本平動物園 (日本平動物園提供)

昭和44年(1969)開園。動物の展示だけ
でなく、種の保存や調査、研究にも取り組
んでいます。平成19～25年の再整備で
「猛獣館299」などを新設。現在約140種
の動物たちを飼育しています。



三保松原

天女の伝説を持つ名勝。平成25年(2013)、
富士山世界文化遺産の構成資産として登
録されました。



駿府城天守台の発掘調査

平成28年(2016)開始。江戸城をしのぐ規模
の慶長期天守台とともに、時代を遡る天正期
の天守台も発見されました。

登呂遺跡の発掘 (登呂博物館所蔵)

戦争中、軍需工場の建設工事で見つかった弥生
時代の集落。戦後、多くの市民が協力して科学
的な発掘・研究が行われました。



静岡大火 (昭和15年)

静岡空襲、清水空襲 (昭和20年)

市街の大部分が焼失

焼け野原からの再出発



中町の常夜灯



昭和9年(1934)に立てられた市役所
(国登録有形文化財)



交通量の増す国道1号線 静岡駅前



児童会館と駿府会館

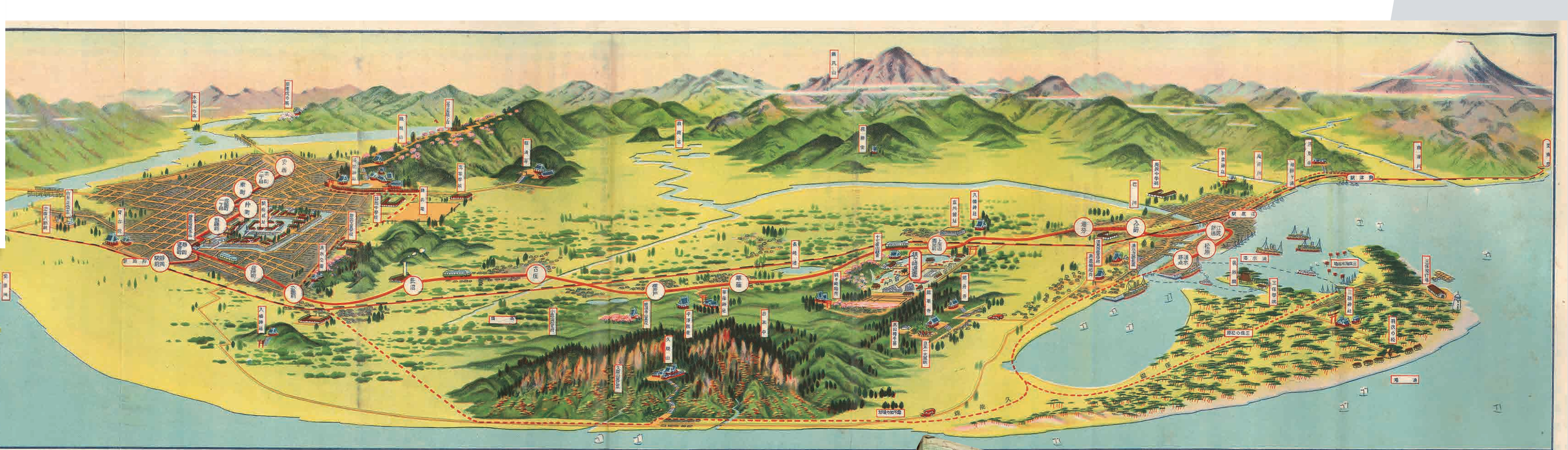


戦後の清水港。
輸出緑茶の接岸荷役。
(フェルケル博物館提供)

(静岡市所蔵 海野幸正さん撮影)



安倍川橋 大正12年(1923)開通のトラス橋。
令和5年に100周年を迎えます。



昭和
1926年～

お茶の貿易が発展。

大正
1912年～

陸軍歩兵第34連隊が
駿府城址に。(明治30年)
静岡は商都、軍都として発展。

徳川家は一大名として静岡へ。
学校、病院、新しい産業
幕府の優秀な人材が、
まちの基礎をつかった。

明治
1868年～

明治維新



徳川家康の天下統一から
約260年続いた江戸時代。
江戸と京都を結ぶ東西の
重要なルート「東海道」。

江戸
1603年～



静岡電気鉄道沿線案内 (静岡市所蔵)

現在の静岡市域を描いた昭和2年(1927)の絵地図です。
海路によるお茶の輸出など、静岡と清水はますます密接な
関わりを持って発展していきました。茶町の問屋街と清水
港を結ぶ鉄道(現在の静岡鉄道)も数かれ、まちの発展に
重要な役割を果たします。



いまだに残る
「教導石」(県庁前)

地位や立場にこだわらず
知識を伝え合うための仕
掛け。聞きたいことを書
いて石に貼っておくと、誰
かが反対側に答えを貼っ
てくれました。

清水港の拡大

巴川の河口で栄えていた清水湊は、大
型蒸気船に合わせて外海に開いた港
として近代化のスタートを切りました。
明治32年(1899)、開港場に指定。
お茶の輸出が始まります。まだ大型船
は接岸できず、はしけなどに茶箱を満
載して沖合の本船に運びました。
(写真:フェルケル博物館提供)



茶箱



第二期修築工事の風景



テルファー



輸出茶のはしけ積み



沖合の船荷積み

海沿いは人気の別荘地に

気候が穏やかで景色も美しかった興津地区などには、
作家や画家のほか、明治政府の元老たちも別荘を営
み、寒い季節を過ごす避寒地などとして過ごしました。



徳川慶喜



勝海舟



徳川家達



渋沢栄一

(国立国会図書館「近代日本人の肖像」より)



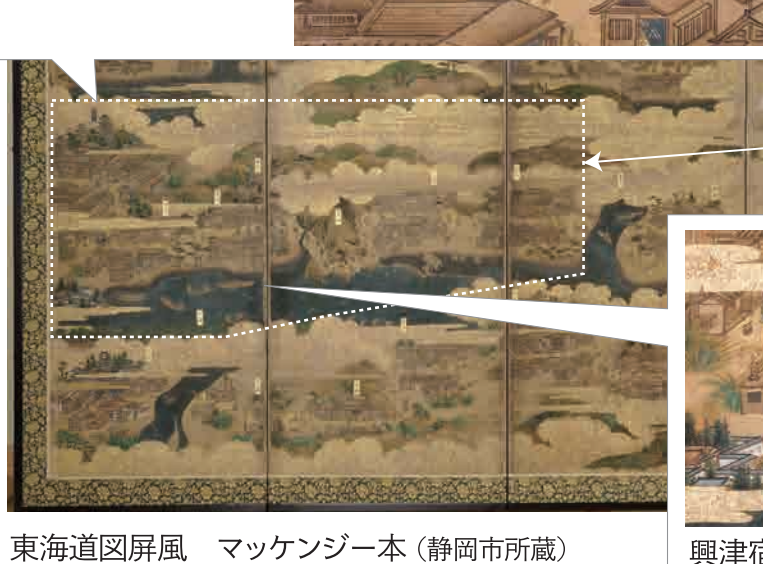
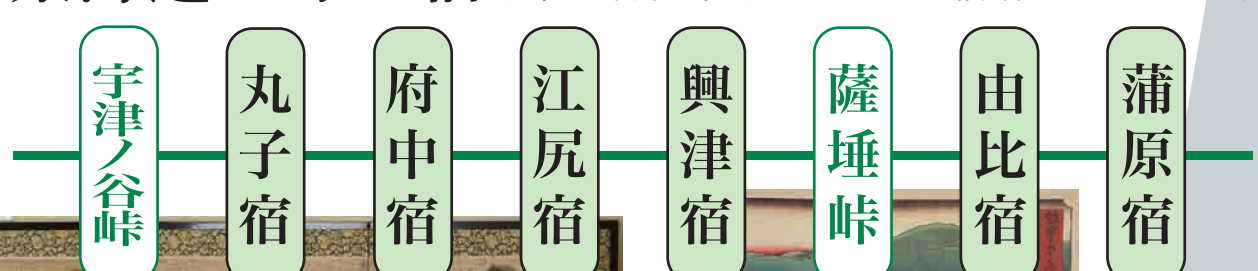
元老の井上馨(左)と西園寺公望(右)



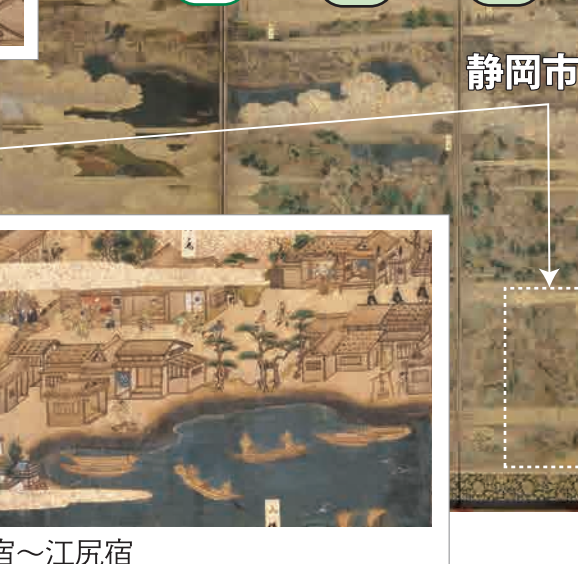
(国立国会図書館「近代日本人の肖像」より)

東海道二峠六宿

現在の静岡市域には六つの宿場がありました。



東海道図屏風 マッケンジー本 (静岡市所蔵)



興津宿～江尻宿



双筆五十三次 府中
お茶の生産はこの頃から
盛んでした。(静岡市所蔵)



「安鶴在世記」(静岡市所蔵)に描かれた、駿府の町の人々